

(2017年3月14日 株式会社ワコム「当社グループの新たな取り組みについて」説明会)

質疑応答(要旨)

(質問) 今回、減損処理されたグローバル基幹業務システム(ソフトウェア)は売上と紐付くようなものではないと思うが、減損処理の会計処理はどのようになっているのか。

(回答) システム導入はビジネスの成長を前提として計画した。その売上規模に対して一定の便益が享受できる前提で投資規模を決めたが、前回発表した中期経営計画を取り下げたことに伴い、想定していた事業規模が確保できないとの判断から減損処理を行った。

(質問) 減損するシステム自体は稼働するのか。また基幹業務システムとはERPシステムのことか。

(回答) 欧米で一部稼働が始まっており、減損対象となった残りの部分も使用するかどうかの判断が可能な状態。今後の売上と費用のバランスを検討し、改めて来年度中に検討予定の新しい中期経営計画の内容を踏まえて、どのようにするか決めていきたい。ERPはシステム全体の一部であり、SCM(製販・在庫管理)など他の機能も含まれる。

(質問) 来年度以降の減価償却費を今年度に前倒して計上するということがか。

(回答) 今期低下した売上水準に見合った形で今後得られるシステムからの便益の過大部分を今期に調整し、来期以降については、稼働するシステムについて適正な減価償却費をもとに継続的な売上成長を図るもの。

(質問) 来年度末をもってとはいえ今回の代表取締役社長交代の発表は唐突な感じがする。経緯を説明してほしい。

(回答) 私山田が代表取締役社長に就任してから10年以上経過したが、就任当時と異なり、ここ数年は、事業構造が複雑化しており、分野も広がってきている。かねてより、代表取締役社長がグループ全体を見るには体制強化が必要だと考えていた。IT業界は非常に変化が速く、顧客のタイプや要求されるソリューションも変化しており、クラウドへの移行など、これまで当社が培った経験と事業に対する理解とは異なる分野での知見を持たないとリードしていけないとここ数年考えてきた。これから事業の構造が変わっていく中で、次世代のマネジメントにバトンタッチしていく時期ではないかと考え、ここ数ヶ月間、取締役会で議論を続けてきた。私も年齢が来年60歳を迎えようとしており、トップとして経過した分、10年の若返りを図るタイミングだと判断した。

(質問) トップの後任について、社内の人材リソースはどうなっているのか。

(回答) 社内に複数名の後継者候補がいる。技術に明るくグローバルビジネスの経験がある、また、トップとして要求されるガバナンスなど管理面での能力も含めて素養がある。

(質問) 前回発表の中期経営計画が取り下げられたことについて、苦労のあったテクノロジー・ソリューション事業以外に、ブランド製品事業について見通しが変わってきたという認識なのか。

(回答) 基本戦略の軸は変わっていない。テクノロジー・ソリューション事業については、サムスン向けなどの大きな変動要因もある一方、タブレット端末向けは伸びているという状況。ブランド製品事業については、今期、技術標準を大きく引き上げる取組みを行い、一部ディスプレイ製品で少々苦労しているが、今年3月で一通り完了する。新たな中期経営計画については、新しい経営陣が責任を持って取組むことが良いと判断した。来期については、現在の事業の業績をしっかりと固めつつ、コスト構造の改善に取組む時期とみており、新しい中期経営計画は来春の発表となる見込み。

(注) 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しておりますが、今後さまざまな要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上